

日本エリオット波動研究所のメルマガのサンプル

以下、メルマガ第 100 号（令和元年 12 月 14 日発行）より一部を抜粋したものです。

12 月 13 日の場中に日経平均は 24000 円の大台に乗せた。

いよいよ天井に到達するのかどうか気になるところだが、まずは前号で掲載したドル円のチャートをもう一度見て頂きたい。



この日足チャートのことである。

筆者はこのようにバリアー型のトライアングルが間もなく完成し、完成した後は(B)-(D)ラインを抜ける方向に動く、つまり円高になるという見方をメインにしている。

ここで、過去に出現したバリアー型トライアングルがどのような形で完成したのかについて見ていきたい。

目立つところでは次のような場所にバリアー型トライアングルを見つけることができる。



これは、225CFD の日足チャートである。A と B で示した波動がバリアー型トライアングルとカウント可能だが、それぞれについて詳しく見て行くことにしよう。

まず、A のバリアー型トライアングルは次のようになっている。(4 時間足)



上のチャートを見れば明らかだが、B 波と D 波はほぼ同値で終わっている。また、A-C ラインを引くと、E 波はそのラインからは乖離した位置で終了していることが分かる。

そもそも、収縮型トライアングルにおいて、E 波終点は C 波終点さえ超えていなければ、A-C ラインの内側で終わっても、外側で終わってもルールやガイドラインには抵触しない。むしろ E 波終点が A-C ライン上に来ない方が一般的であるとも言える。

上のトライアングルはインパルスの 4 波の位置に出現したものだが、バリアー型トライアングルが完成した後はこのように水平になっている B-D ラインを抜ける方向に動いていく。

ここでは、トライアングルの副次波に複数のダブルジグザグが出現していることにも注目しておきたい。「Elliott Wave Principle」には「トライアングルの副次波にダブルジグザグは 1 つしか出現しない」というルールの記述があるが著者の観察からはそのルールの正確さは証明できていない。

また、副次波 B 波の (x) 波もバリアー型トライアングルだが、やはり水平なのは b-d ラインであり、完成後はその水平ラインを抜ける方向に動いていることが確認できる。

次に 1 ページの下のチャートで B と印したトライアングルについて見ていこう。(4 時間足)



このトライアングルでは、D 波終点が B 波終点を僅かにではあるが超えてしまっている。このトライアングルを収縮型トライアングルと認識するならば D 波終点が B 波終点を 1 ポイントでも超えればルール違反となる。

しかし、バリアー型トライアングルでは、「D 波終点と B 波終点が原則として (essentially) 同じ位置」であればいいとされている。したがって、上のチャートにあるトライアングル様の波動をバリアー型トライアングルと捉えることは十分に可能であろう。

ここでも当然であるが、トライアングル完成後は株価が B-D ラインを抜ける方向に動いている。

また、このトライアングルの C 波部分をよく見ると、その(y)波の x 波にもバリアー型トライアングルを見つけることができる。このバリアー型トライアングルはランニングトライアングルであるが、完成後はやはり水平になっている B-D ライン側に抜けている。

また、ここでも副次波に複数のダブルジグザグが出現していることに注目したい。

次の事例はドル円である。(週足)



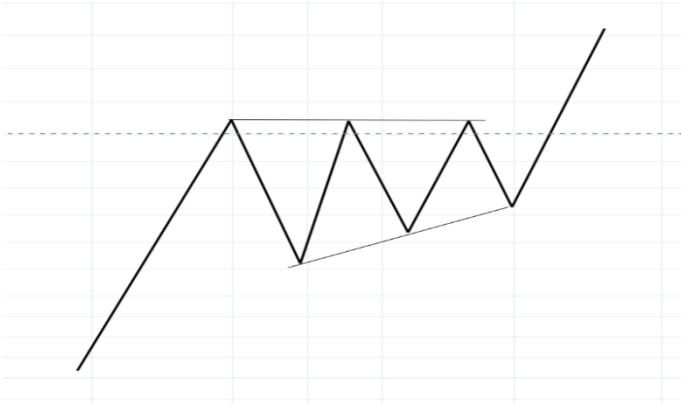
左側のABCDEとしたトライアングルに注目するとこれもB-Dラインが水平なバリアー型トライアングルであることが分かる。

ここで、これまでに例示したバリアー型トライアングルを並べてみる。

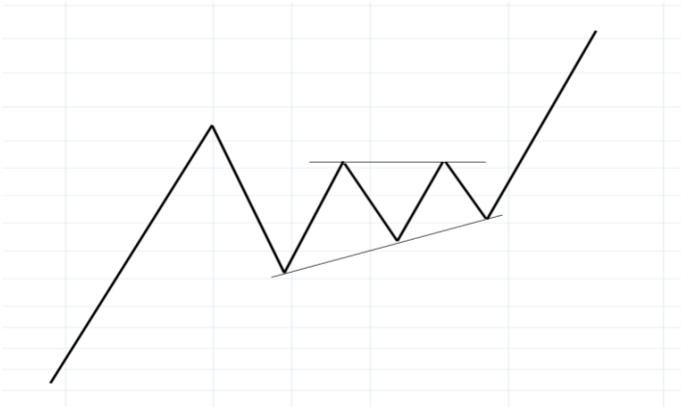


このように、いずれもA波だけが突出して大きく、A波始点－B波終点－D波終点というラインは引くことができない。

つまり、現実に出現してきたバリアー型トライアングルは次のような形ではなく



このような形であるということだ。



こうした特徴は、いま問題にしているドル円のチャートに現れたトライアングルにも当てはまっている。(次のチャート参照)



テクニカルアナリストの中には、これを次のチャートの右側のようにカウントしている人もいるようだが、(c)-(e)ラインが水平で、その水平ラインと反対側に抜けるトライア

ドルをメイン想定とするのは過去のトライアングル事例を研究していないとしか思えない。



トライアングルというのは完成するまでどちらに抜けて行くのかを正確に見極めるのが難しい難解な波動であることは確かだ。しかし、過去の事例を研究していくと、水平になるのはB-Dラインであり、完成後はその水平ラインを抜ける方向に動いていく性質であることが分かる。

よって、次のようにドル円は間もなくバリアー型トライアングルのE波が完成し、B-Dラインを抜ける方向に動いていくと想定すべきであろう。



これはテクニカル分析である。テクニカル分析をする際に「FRB は当面は利下げしないというのがコンセンサスだから円高にはならないのではないかな」などという情報は不要である。何度も指摘してきたが、ファンダメンタルズやニュースを元にした予想が先にあっ

て、それに適合するようにテクニカルを解釈することは方法論として間違っている。

また、トライアングルのE波は必ずしも A-C ライン上で終わらないから、上のチャートのように上昇する前にバリアー型トライアングルが完成してしまうこともあるだろう。

その後は、円高に向かうというのがここまでの分析からメイン想定である。その時、225CFD が円高を押し切って上昇続けていくと考えるのは現時点では難しいと言わざるを得ない。

さて、ここからは 225CFD について考察していきたい。

8月26日安値からの波動にはつぎの2通りのカウントの仕方があると考えている。(2時間足)



このようにインパルスが進行しているというカウントと次のようなダブルジグザグが進行しているというカウントの2つである。(2時間足)